

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017 年 7 月実績 速報版(パネル 270)

6 月実績 確報版(パネル 270)

(2017 年 8 月 22 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年8月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年7月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	89,761,901	100.0%	101.0%	99.8%
食品合計	80,270,869	89.4%	101.4%	99.9%
生鮮3部門合計	29,271,793	32.6%	99.9%	98.3%
青果	11,658,795	13.0%	98.4%	96.8%
水産	7,799,526	8.7%	97.8%	96.2%
畜産	9,813,472	10.9%	103.6%	101.8%
惣菜	9,178,520	10.2%	102.7%	100.5%
日配	17,660,519	19.7%	102.4%	101.3%
一般食品	24,160,038	26.9%	101.9%	100.7%
非食品	6,970,775	7.8%	99.2%	99.1%
その他	2,520,302	2.8%	96.7%	97.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,535,843	43	101.6%	100.7%
関東地方	33,390,677	73	101.9%	100.9%
中部地方	11,001,919	53	100.6%	99.0%
近畿地方	19,025,320	44	100.0%	99.0%
中国・四国地方	8,975,849	34	99.7%	97.1%
九州・沖縄地方	4,832,293	23	100.8%	99.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	755,802	47	97.2%	97.2%
4～10店舗	3,727,694	68	99.7%	98.3%
11～25店舗	10,479,598	66	100.3%	98.9%
26～50店舗	16,773,505	46	100.2%	98.7%
51店舗以上	58,025,302	43	101.5%	100.3%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	87,527,811
総店舗数（店舗）	7,785	店舗平均月商（万円）	11,530
総売場面積（㎡）	12,857,845	売場1㎡あたり売上高（万円）	7.0

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年8月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年6月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,335,974	100.0%	100.6%	99.3%
食品合計	77,297,255	89.5%	101.1%	99.6%
生鮮3部門合計	28,979,958	33.6%	100.1%	98.4%
青果	11,920,757	13.8%	98.5%	97.0%
水産	7,229,757	8.4%	97.3%	95.7%
畜産	9,829,444	11.4%	104.3%	102.3%
惣菜	8,509,499	9.9%	102.8%	100.9%
日配	16,962,452	19.6%	101.3%	99.9%
一般食品	22,845,345	26.5%	101.6%	100.4%
非食品	6,629,245	7.7%	97.1%	97.0%
その他	2,409,518	2.8%	97.4%	98.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,853,569	43	100.2%	99.0%
関東地方	31,888,855	73	101.1%	100.5%
中部地方	10,560,355	53	100.4%	98.0%
近畿地方	19,012,342	44	100.5%	99.2%
中国・四国地方	8,555,567	34	99.7%	97.6%
九州・沖縄地方	4,465,285	23	99.3%	99.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	761,317	48	96.7%	96.9%
4～10店舗	3,595,568	67	100.2%	98.7%
11～25店舗	10,042,473	66	99.8%	98.4%
26～50店舗	16,036,543	46	100.0%	98.4%
51店舗以上	55,900,073	43	100.9%	99.8%

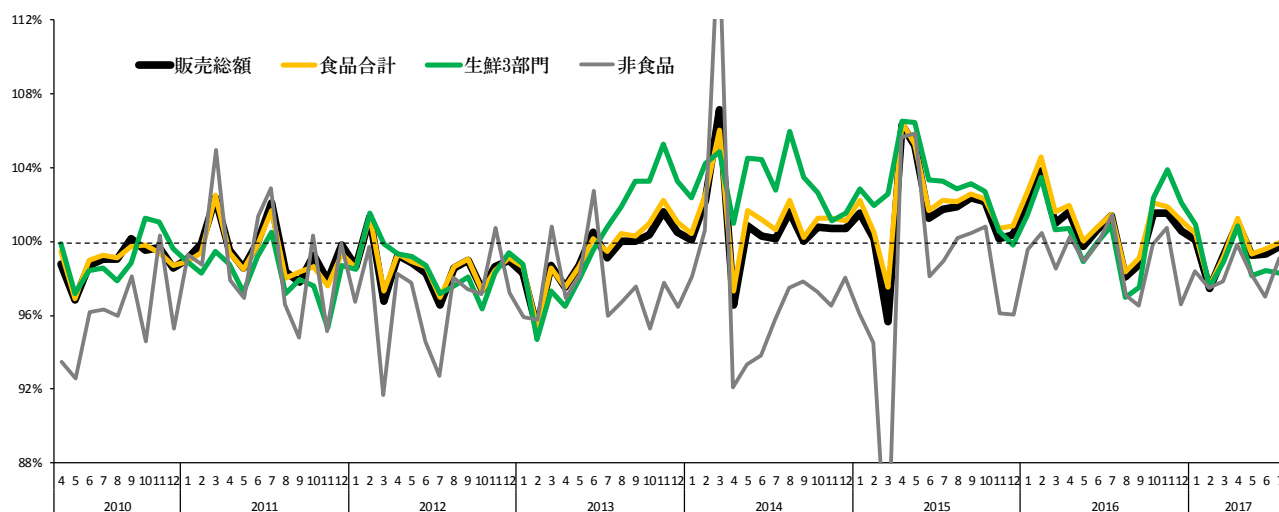
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	84,008,899
総店舗数 (店舗)	7,774	店舗平均月商 (万円)	11,106
総売場面積 (㎡)	12,829,404	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

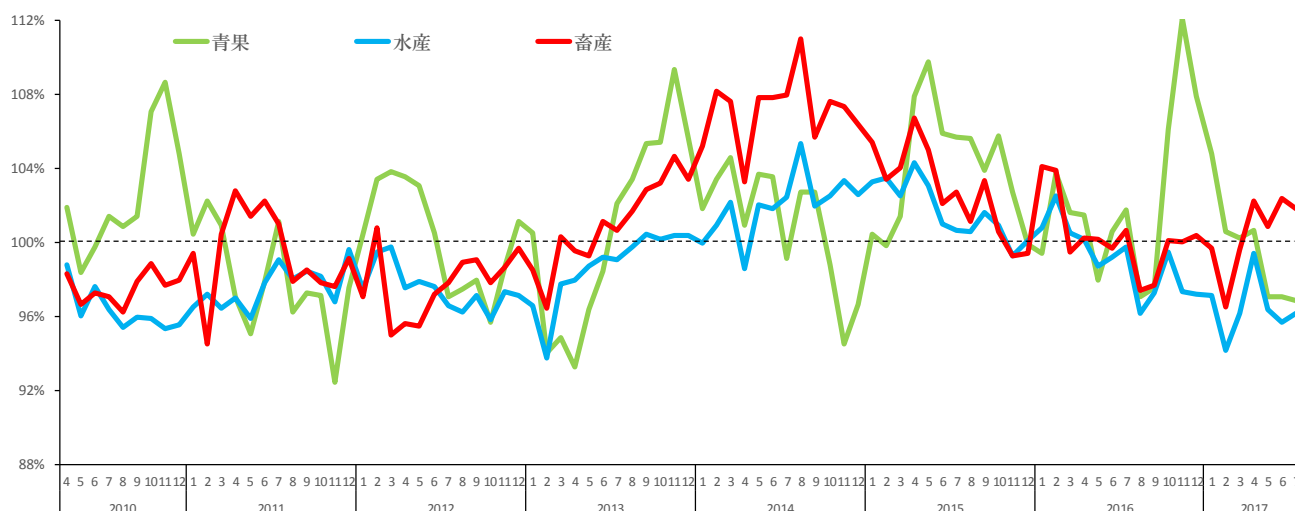
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

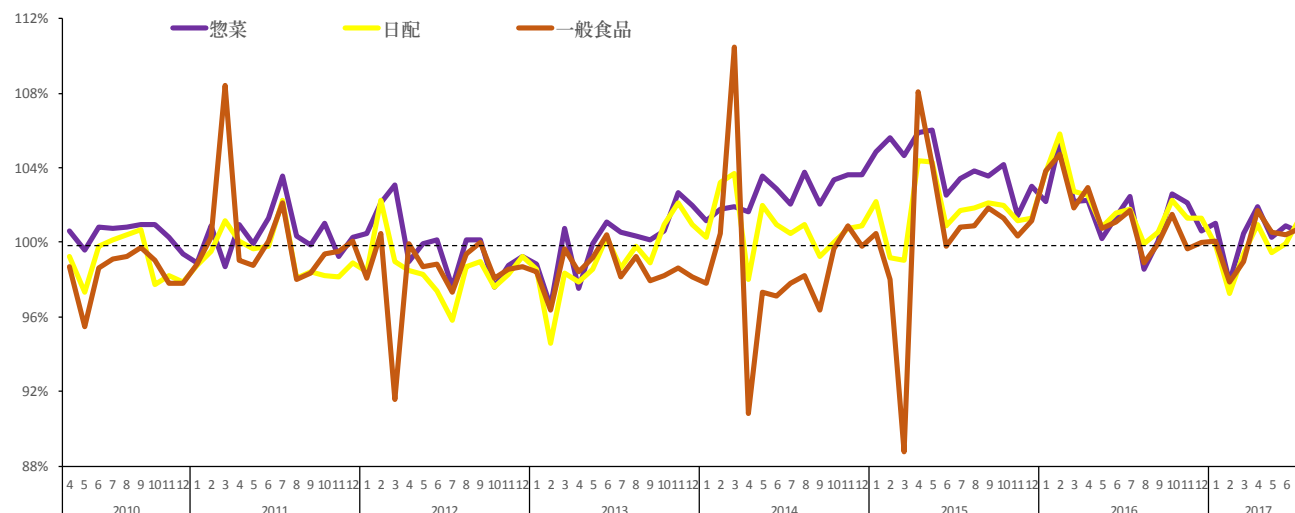
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年6月までは確報版による前年同月比、2017年7月は速報版による前年同月比

2017年7月エリア別気候状況

1. 月の気温：北・西日本で気温がかなり高かった

上旬：北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。沖縄・奄美で平年並だった

中旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。

下旬：西日本と沖縄・奄美でかなり高かった。北・東日本で平年並だった。

2016年7月との比較：上旬から中旬にかけて北海道・東北地方でかなり高く、中旬以降は全国的に高くなった

	平年との比較 (℃)						今年と前年との差 (℃)		
	2017年7月			2016年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	3.1	3.6	0.9	0.4	0.2	0.5	2.7	3.4	0.4
東北地方	3.1	3.5	0.5	0.9	0.6	0.0	2.2	2.9	0.5
関東甲信地方	2.6	2.6	0.8	1.9	1.1	-1.2	0.7	1.5	2.0
北陸地方	1.8	3.1	0.5	1.8	0.3	0.0	0.0	2.8	0.5
東海地方	2.1	1.9	1.0	1.7	1.0	-1.3	0.4	0.9	2.3
近畿地方	1.5	2.2	1.2	2.1	0.5	-0.4	-0.6	1.7	1.6
中国地方	1.9	2.3	1.1	2.2	0.2	0.3	-0.3	2.1	0.8
四国地方	1.1	1.4	1.5	1.7	0.4	-0.1	-0.6	1.0	1.6
九州北部	1.7	1.7	1.8	1.9	0.1	0.8	-0.2	1.6	1.0
九州南部・奄美地方	1.1	0.7	1.2	0.8	0.5	0.2	0.3	0.2	1.0

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 月の日照時間：北日本太平洋側で日照時間がかなり多かった

上旬：北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と東日本で多かった。西日本と沖縄・奄美で平年並だった。

中旬：北日本太平洋側、東日本、西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。沖縄・奄美で平年並だった。

下旬：東日本で少なかった。北・西日本と沖縄・奄美で平年並だった。

2016年7月との比較：上旬から中旬にかけて北日本でかなり多く、下旬は全国的にやや少なかった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年7月			2016年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	219	128	120	117	118	90	102	10	30
東北地方	179	164	77	79	133	113	100	31	-36
関東甲信地方	167	172	65	129	128	88	38	44	-23
北陸地方	143	175	70	87	127	110	56	48	-40
東海地方	141	151	73	141	137	88	0	14	-15
近畿地方	101	156	72	135	113	104	-34	43	-32
中国地方	77	159	79	121	111	100	-44	48	-21
四国地方	76	139	98	132	110	112	-56	29	-14
九州北部	65	145	109	116	97	136	-51	48	-27
九州南部・奄美地方	93	119	108	111	90	120	-18	29	-12

平年差

平年比150%以上

平年比125%～149%

平年比50%以下

平年比51%～75%

前年差

+50%以上

+25～49%

-50%以下

-25～-49%

3. 月の降水量：「平成29年7月九州北部豪雨」が発生するなど、北・東・西日本日本海側で局地的に大雨

上旬：北日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側で多かった。

中旬：北日本太平洋側、東・西日本、沖縄・奄美で少なかった。一方、北日本日本海側で多かった。

下旬：西日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側でかなり多く、北日本で多かった。

2016年7月との比較：上旬と下旬では局地的にかなり多い降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年7月			2016年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	51	121	129	185	61	187	-134	60	-58
東北地方	104	77	227	84	59	37	20	18	190
関東甲信地方	110	34	112	41	74	79	69	-40	33
北陸地方	238	59	396	92	65	194	146	-6	202
東海地方	68	43	62	103	20	78	-35	23	-16
近畿地方	106	33	123	106	43	54	0	-10	69
中国地方	112	27	115	93	45	28	19	-18	87
四国地方	110	18	46	136	41	36	-26	-23	10
九州北部	134	31	24	71	144	13	63	-113	11
九州南部・奄美地方	74	52	30	321	124	28	-247	-72	2

平年差

平年比150%以上

平年比125%～149%

平年比50%以下

平年比51%～75%

前年差

+50%以上

+25～49%

-50%以下

-25～-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「7月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2017 年 8 月調査結果（7 月実績）
（2017 年 8 月 22 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
 - ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通し判断ともにわずかに改善

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から+0.1の44.2、見通し判断も前月から+0.1の42.2となり、どちらも大きな変化はみられなかった。

経営動向調査では、売上高 DI が-11.6と3ヵ月連続の二桁のマイナスとなったほか、収益 DI は-10.2とわずかに低下した。生鮮品仕入価格 DI が青果相場の下落により2013年4月以来の-1.4とマイナスとなった影響で、販売価格 DI は-2.7まで低下した。また、客単価 DI が-2.4と3ヵ月連続のマイナスとなった。ゲリラ豪雨の影響を受けた来客数 DI も-13.1と低迷した。

カテゴリー動向調査では、畜産 DI がわずかなプラスとなったが、他の DI はマイナスとなった。なかでも野菜を中心に単価が下落した青果 DI や寄生虫アニサキス報道の影響を受けた水産 DI では二桁のマイナスを示した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、総じて前月から変化はみられなかった。周辺地域景気判断に比べ、スーパーマーケット中核店舗での景気判断 DI が悪化している状況が続いている。2015年5月をピークにした低下傾向が続いているとみられる。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

景気判断は現状の水準を維持しているが、生鮮仕入原価 DI の低下により3ヵ月続けて客単価がマイナスとなるなどの厳しい状況が続いている。生鮮相場の影響は避けられないとしても、近年、日常化している不安定な気候や変化の大きい気温に対しては、予報技術の進歩により一定程度対応可能である。異常気象のマイナスを最小化し、プラスに転換する取り組みに期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 44.2 (+0.1) 前月：44.1	消費者購買意欲DI 当月： 45.1 (±0) 前月：45.1	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.6 (-0.1) 前月：41.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 46.1 (-0.2) 前月：46.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 42.2 (+0.1) 前月：42.1	消費者購買意欲DI 当月： 43.8 (+0.6) 前月：43.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 39.5 (-0.8) 前月：40.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.3 (-0.4) 前月：45.7
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-11.6 (-0.4) 前月：-11.2	客単価DI 当月：-2.4 (+0.7) 前月：-3.1	来客数DI 当月：-13.1 (-2.9) 前月：-10.2	
収益DI 当月：-10.2 (-0.7) 前月：-9.5	販売価格DI 当月：-2.7 (-1.7) 前月：-1.0	生鮮品仕入原価DI 当月：-1.4 (-3.1) 前月：1.7	食品仕入原価DI 当月：2.4 (+1.1) 前月：1.3

カテゴリー動向

青果DI 当月：-19.1 (-3.9) 前月：-15.2	水産DI 当月：-19.6 (±0) 前月：-19.6	畜産DI 当月：0.2 (-3.4) 前月：3.6	
惣菜DI 当月：-0.5 (-1.1) 前月：0.6	日配DI 当月：-1.1 (+5.3) 前月：-6.4	一般食品DI 当月：-5.4 (-2.9) 前月：-2.5	非食品DI 当月：-9.9 (+2.4) 前月：-12.3

○ 内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

8月調査（7月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高 DI

二桁のマイナスを記録し、低迷続く

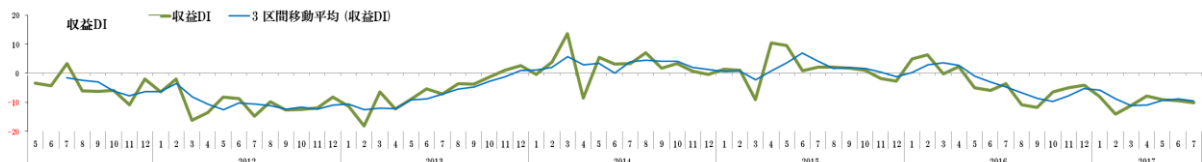
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	10.7	40.7	32.2	15.3	1.1	-11.2
売上高（当月）	10.2	44.3	27.8	17.0	0.6	-11.6



2. 収益 DI

当月もわずかに下降し、低迷が続く

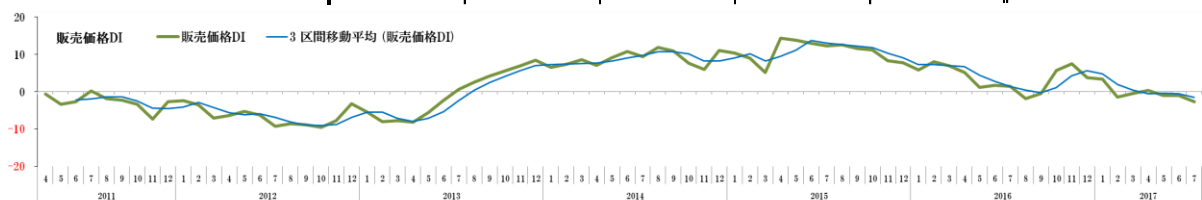
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.8	37.9	35.1	14.9	2.3	-9.5
収益（当月）	10.3	39.1	32.8	16.7	1.1	-10.2



3. 販売価格 DI

マイナス圏での推移が続く

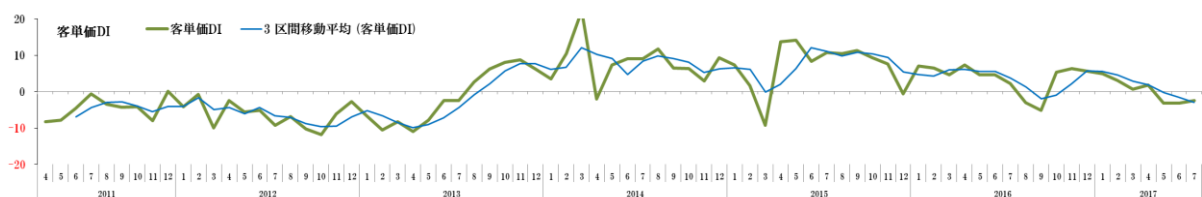
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.6	17.5	67.2	14.7	0.0	-1.0
販売価格（当月）	1.7	20.9	63.8	13.6	0.0	-2.7



4. 客単価 DI

3ヵ月連続でマイナスとなり下降傾向が続く

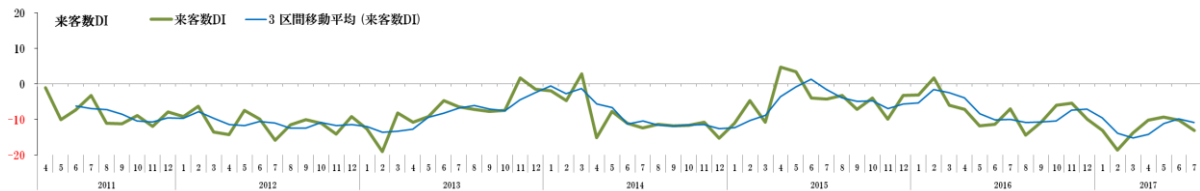
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.7	26.9	53.7	17.7	0.0	-3.1
客単価（当月）	1.1	24.9	56.5	17.5	0.0	-2.4



5. 来客数 DI

2 ヶ月連続で二桁マイナスとなるなど弱含みが続く

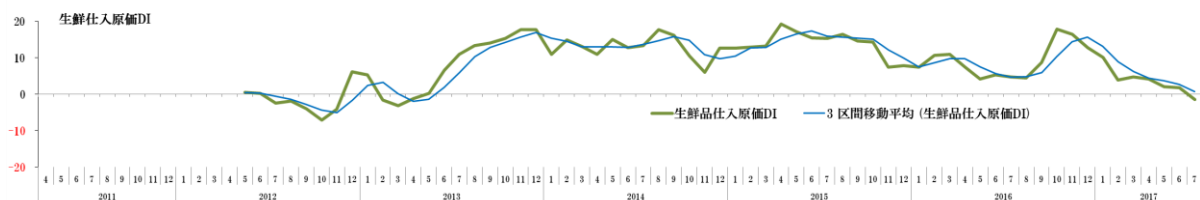
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	7.4	40.9	36.9	14.8	0.0	-10.2
来客数 (当月)	9.6	46.9	29.9	13.6	0.0	-13.1



6. 生鮮仕入原価 DI

2013 年 4 月以来のマイナスを記録し、低下傾向が続く

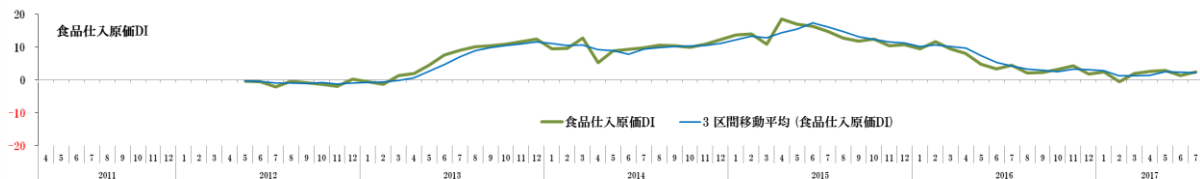
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.9	14.9	56.3	24.1	1.7	1.7
生鮮仕入原価 (当月)	5.2	20.8	50.3	22.0	1.7	-1.4



7. 食品仕入原価 DI

わずかにプラス圏を維持し、横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.3	10.2	67.6	19.9	0.0	1.3
食品仕入原価 (当月)	1.7	8.6	68.6	20.6	0.6	2.4

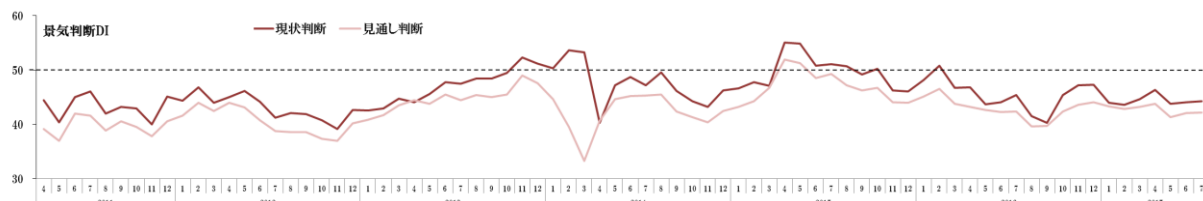


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断とも前月水準から変化なし

回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.1	29.4	61.6	7.9	0.0	44.1
【現状】景気判断（当月）	1.1	28.1	63.5	7.3	0.0	44.2
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.3	31.6	61.6	4.5	0.0	42.1
【見通し】景気判断（当月）	2.3	31.8	60.8	5.1	0.0	42.2



2. 消費者購買意欲 DI

見通し判断は小幅に改善するも、前月水準から変化なし

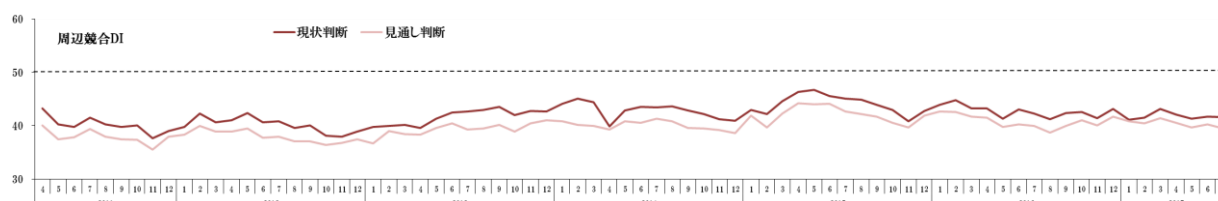
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.6	26.0	66.1	7.3	0.0	45.1
【現状】購買意欲（当月）	0.6	24.9	68.4	6.2	0.0	45.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.1	28.8	66.1	4.0	0.0	43.2
【見通し】購買意欲（当月）	1.1	27.8	65.9	5.1	0.0	43.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断とも前月水準から大きな変化なし

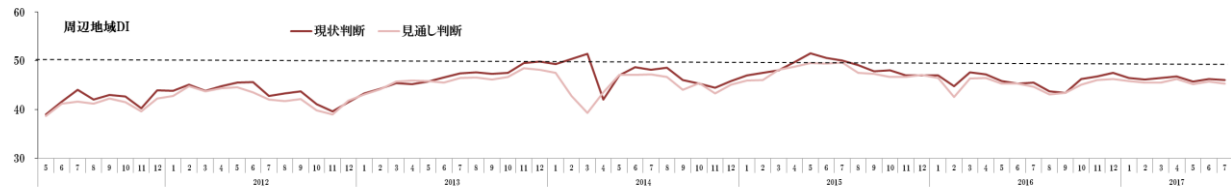
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.0	28.8	63.8	3.4	0.0	41.7
【現状】競合状況（当月）	4.5	28.7	62.9	3.9	0.0	41.6
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	4.5	31.6	62.1	1.7	0.0	40.3
【見通し】競合状況（当月）	6.3	31.3	60.8	1.7	0.0	39.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

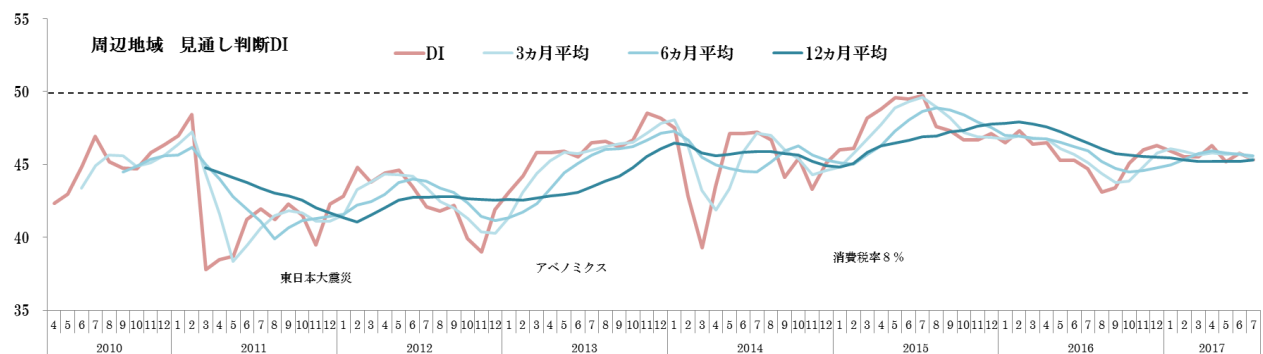
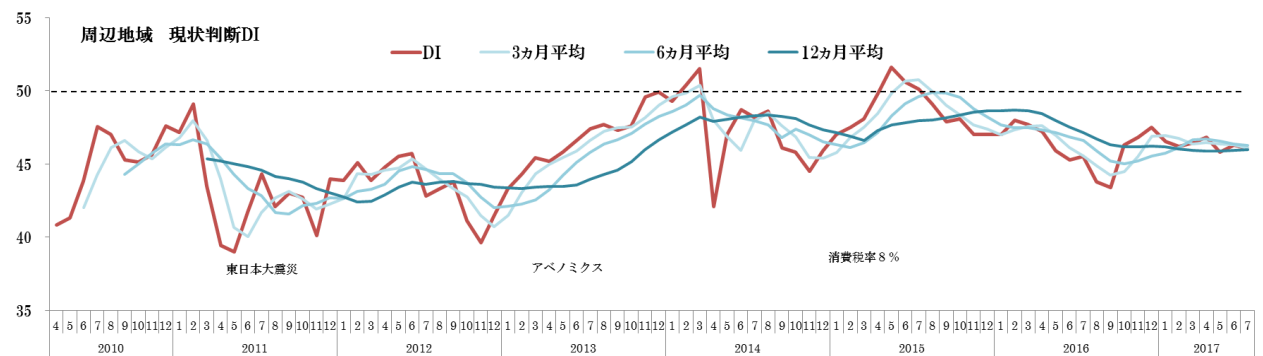
現状判断、見通し判断とも前月水準から大きな変化なし

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	17.0	80.7	2.3	0.0	46.3
【現状】地域景気 (当月)	0.0	18.5	78.7	2.8	0.0	46.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	17.0	80.7	2.3	0.0	46.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	18.5	78.7	2.8	0.0	46.1



長期傾向 (2010年4月～)

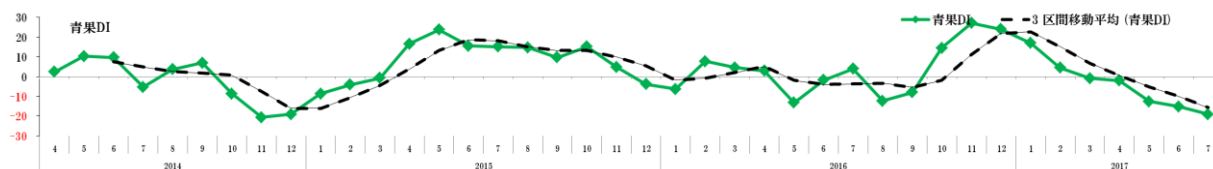
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、方向感なく横ばい推移が継続してし、直近は12ヵ月移動線付近で下げ止まっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-19.1（不調）

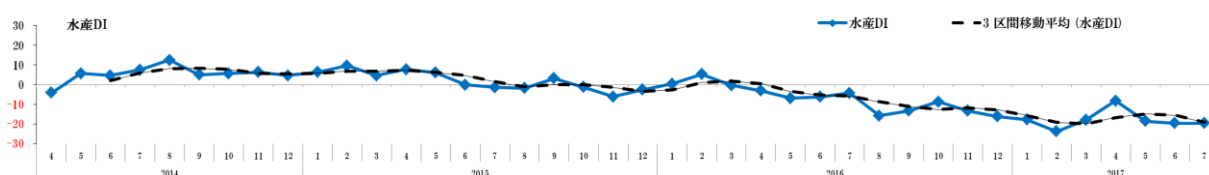
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	14.9	44.0	28.6	11.9	0.6	-15.2
青果（当月）	20.6	46.7	21.8	10.3	0.6	-19.1



気温の上昇により、サラダ類（トマトやキャベツ、レタス）を中心に販売数量は好調となったが、野菜類は相場が低下し一品単価が下落したため不調となった。特に土物（たまねぎ、ばれいしょ）は前年の高値であり単価の下落幅が大きかった。一方、比較的高値で推移している果物類では、スイカが総じて好調であったほか、出荷に遅れていたサクランボや桃、メロンなどが出回り始めたことも追い風となった。カットフルーツは引き続き好調。輸入果物ではバナナが単価下落で不調となった。

2. 水産DI：-19.6（不調）

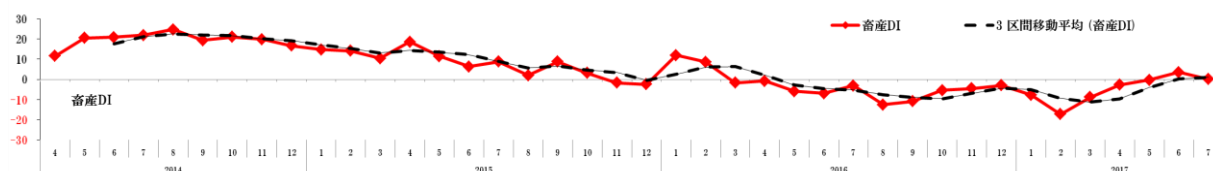
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	18.5	51.2	23.2	4.8	2.4	-19.6
水産（当月）	16.9	54.2	19.3	9.6	0.0	-19.6



引き続き生魚の入荷が少なく相場も高値が続くなか、生魚、刺身などが引き続きアニサキス報道による影響を受け不調となった。うなぎは、丑の日の曜日めぐりがよく、かつ天候にも恵まれたため、国産うなぎを中心に好調となった。かつおやアジ、生するめいかは入荷不足と相場高の影響で不調となった。

3. 畜産DI：0.2（やや好調）

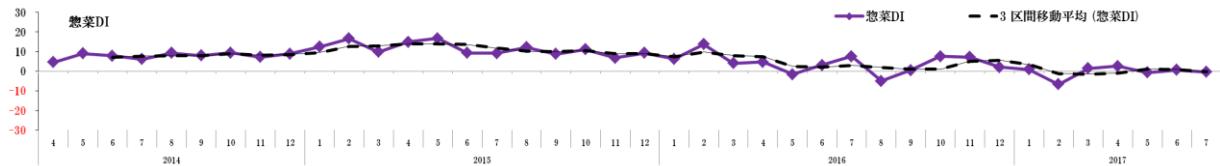
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	3.6	25.1	32.3	31.1	7.8	3.6
畜産（当月）	5.5	25.5	37.0	27.3	4.8	0.2



気温が上昇した地域ではステーキや焼肉用牛肉が好調となった。相場が高止まりしている国産は伸び悩み、輸入牛を中心に好調となった。豚肉は国産が相場高となっているが、冷しゃぶ用を訴求して好調だが、一方で価格上昇による数量減や輸入豚への需要シフトにより伸び悩んだ店舗もみられた。鶏肉は好不調の判断がわかれている。海産物からの需要シフトを指摘するコメントも多くみられた。

4. 惣菜DI：-0.5（やや不調）

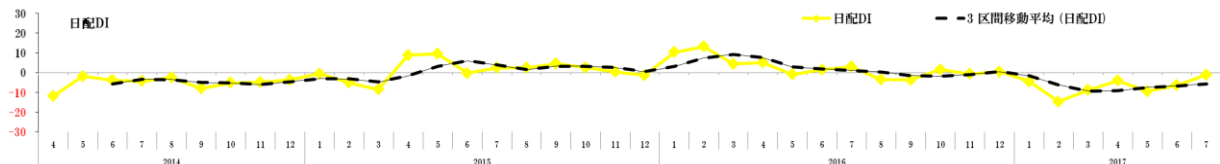
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.6	18.7	44.0	27.1	3.6	0.6
惣菜（当月）	4.3	28.0	37.2	26.2	4.3	-0.5



気温上昇により、サラダ類、冷やし麺などの涼味商材や、焼き鳥などのおつまみが好調となった。天ぷら、フライ、唐揚げなどは、暑さにより家庭調理が敬遠され好調な店舗がある一方で、伸び悩んだ店舗もみられた。寿司は持ち帰りを避ける傾向がみられるなど不調となった。土用の丑は、どんぶりものを中心に好調となった。

5. 日配DI：-1.1（やや不調）

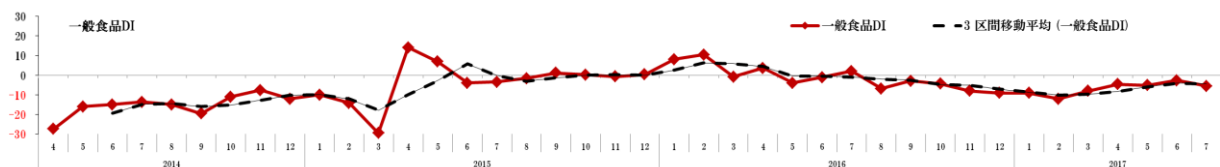
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.1	31.0	42.3	19.6	0.0	-6.4
日配（当月）	4.9	27.4	37.2	28.0	2.4	-1.1



気温上昇により、アイスが好調となったほか、涼味商材であるチルド飲料、麺類、豆腐、ところてん、などが好調となった。洋日配は全般的に好調だが、練り物を中心に和日配は不調となっており、なかでも前年青果相場高により需要が高まった漬物類は反動がみられた。暑さが厳しかった地域では、和菓子やパンの動きが悪かった。

6. 一般食品：-5.4（やや不調）

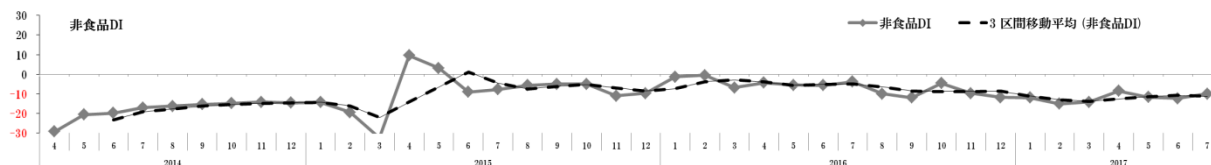
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.4	24.6	46.1	22.8	1.2	-2.5
一般食品（当月）	6.6	29.5	43.4	19.9	0.6	-5.4



気温上昇により、乾麺やめんつゆ、飲料やチューハイなどの夏物商材が好調だったほか、行楽商材も好調となった。ビールは単価上昇による数量減の影響がでている店舗もみられた。前月まで好調の米類は伸び悩みをみせたほか、お中元ギフトは全般に厳しくなった。菓子類は好不調が分かれた。競合との価格競争を指摘するコメントが多くみられた。

7. 非食品 DI：-9.9（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.1	31.3	46.0	6.7	1.8	-12.3
非食品（当月）	15.5	26.7	42.9	11.8	3.1	-9.9



気温の上昇により制汗剤など季節商材の動きがよく、またヒアリ報道などで殺虫剤が好調となった店舗が多い。一方でたばこや紙製品などは不調となった。ホームセンター、ドラッグストアなどとの価格競争が厳しい状況が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2017 年 8 月調査（7 月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場安
2. 気温上昇・豪雨
3. 水産部門の不振

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

7 月実績速報版 178 社
 6 月実績確報版 177 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp